

## 末梢肺癌に対する区域切除の適応拡大におけるリンパ節郭清の検討

### 1. 研究の対象

2017 年から 2023 年に当院で 3 cm 以下の非小細胞肺癌に対して区域切除もしくは肺葉切除をうけられた方

### 2. 研究の概要

研究期間: 総長の研究実施許可日～2028 年 3 月 31 日

研究目的: JCOG 0802/WJOG4607L の結果より小型末梢肺癌に対して区域切除とリンパ節郭清の有効性が報告され、今後区域切除とリンパ節郭清は標準術式の一つとなりました。同試験の副次解析としてすりガラス陰影を伴う part solid 肺癌では非隣接の葉間リンパ節(0%)や縦隔リンパ節(0.5%)への転移をほとんど認めませんでした。すりガラス陰影を伴わない pure solid 肺癌では非隣接葉間リンパ節転移(1.0%)、縦隔リンパ節転移(5.4%)を認めると報告しました。現在、区域切除の適応拡大を目的とする新規臨床試験として JCOG2217 (part-solid 肺癌), WJOG16923L (pure-solid 肺癌) では 2cm 超 3cm 以下の肺癌を対象に区域切除と肺葉切除のランダム化比較試験が開始されましたが、より大きなサイズの 2cm 超 3cm 以下の肺癌における区域切除時のリンパ節郭清の報告はほとんどありません。そこで、今回我々は 2 cm 以下と 2cm 超 3cm 以下の肺癌のリンパ節転移様式を比較し、2cm 超 3cm 以下 cm の肺癌に対する適切なリンパ節郭清を明らかにすることを考えました。

研究方法: 研究対象者の方の診療録を後ろ向きに調査し、年齢、性別、腫瘍マーカー、画像所見、腫瘍局在部位ごとのリンパ節転移様式を検討し、背景因子、治療方法、予後なども評価します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

#### ①基本情報

性別、肺切除時の年齢、腫瘍占拠部位、腫瘍径 病期など

#### ②手術と病理学的診断、術後治療

手術日、術式、完全切除の有無、組織型、術後病理でのリンパ節転移情報、病理病期、リンパ節転移部位など

#### ③予後情報、再発後治療

再発の有無、初再発確認日、生死と死因、最終生存確認日 など

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者

大阪国際がんセンター 呼吸器外科 馬庭知弘

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上